

大賞「地域創造イノベーター」

青森県 水土里ネット板柳東部
いたやなぎとうぶ

児童へのメダル寄贈やインターンシップで地元をPR 「いたや毛豆」のブランド化による地域活性化も

位置図



あえて他地区の水利施設も見学し
農業用水の広域循環について伝える

水土里ネット板柳東部が管轄するのは、津軽平野のほぼ中央に位置する約1000haの水田地帯です。水稲に加え、リンゴやいたや毛豆、常盤ニンニク、ブドウのストチューベンなどが地区の名産となっています。

水土里ネット板柳東部では、「今できること」に役員が一丸となって取り組むことが大事だと考え、21世紀土地改良区創造運動に力を入れています。農業者の高齢化や農地の集積が進む中、組合員と非農業者のつながりを強めて地域住民とともに農業用施設を維持管理し、将来の担い手へ受け継ぐことを目指します。

次世代の子供たちに水土里ネットの仕事と役割を伝えるため、平成26年度から実施しているのが農業水利施設の見学会「水の旅」です。町内の小学校3年生と5年生を対象に、施設の見学会と学校への出前授業を実施。農業用施設の役割や水土里ネットに対する理解を深めてもらう大切な学びの場となっています。

当初は水土里ネット板柳東部の管内にある施設や本地区の水源地である浅瀬石川ダムなどを見学していましたが、学習の効果をさらに高めるため、平成29年度か



「水の旅」ダムの役割を学ぶ



土地改良区役員によるメダル授与

らは他の水土里ネットが管理する津軽ダムなどの施設を見学コースに組み込むことに。これにより、農業用水は自分たちが住む場所だけのものではなく、より広域的な循環のもとにあり、地域が一体となって管理する必要があることを実感してもらえようになりました。学習成果の発表会も開き、学校の先生や保護者たちから好評を得ています。

この取り組みは、環境の保全や子どもへの健全育成を図る活動を行っているNPO法人あおもりふるさと再生機構と連携し、財政的な支援を受けることで活動の継続性を高めています。



水中ポンプのオイル交換実習



ドローンを使った測量技術について学ぶ

児童を対象とした取り組みとして、メダル寄贈も行なっています。管内中央にある板柳東小学校で行われる運動会とマラソン大会で上位入賞した児童たちにメダルを授与することで、水土里ネットの名前や取り組みが保護者たちにまで周知され、絶大なPR効果を上げています。最近では水土里ネット職員が水路を巡回していると、子供たちから「メダルを獲りたいから、来年も頑張るね」と声をかけられるようになり、職員たちも大きな喜びを感じています。

工業高校の生徒を受け入れて施設補修やドローン実習を実施

高校生に対しては、平成26年度からインターンシップを実施しています。弘前工業高校電子科の生徒2名を毎年受け入れ、施設補修やドローンによる空中写真測量などの実践的な体験実習を行い、参加した高校生からも好評です。

インターンシップが始まったきっかけは、水土里ネット板柳東部が職員を募集したものの、高校生の応募がなかったことでした。高校の進路指導部にヒアリングしたところ、先生たちも水土里ネットをよく知らないため、生徒に推薦しにくいことが判明。そこでまずは水土里ネットについて知ってもらおうと、インターンシップを始めたのです。今後この取り組みを継続し、将来の人材確保につなげていきたい考えです。

地元農家と連携で研究会を立ち上げたや毛豆の販路を拡大

地域活性化の取り組みとして、地域の名産であるいたや毛豆の生産・販売にも力を入れてきました。以前



「いたや毛豆」を伊勢丹(東京)で販売している様子

は青森県内でしか食べられていなかったため、県外の人にも広く味わって欲しいとの思いから、水土里ネットと地元農家で「いたや毛豆研究会」を発足。農薬や化学肥料を極力使わない栽培法に取り組み、安心・安全なブランドの構築に努めています。

関東で販売を始めた当初は、毛深い外観が受け入れられず、一般的な枝豆より低価格で取引されていましたが、伊勢丹百貨店や飲食店への出荷が増えて認知度が上昇。現在は高値で取引されるようになり、地域の活性化に貢献しています。

今後は地域外にも広報活動を拡大するため、SNSの活用やホームページ作成も検討中です。これからもスローガンの「今できること」を合言葉に活動を展開し、水土里ネットが地域になくはない存在となるよう取り組んでいきます。

水土里ネット概要

水土里ネット名	水土里ネット板柳東部
役員数	7名
職員数	常勤3名
組合員数	752名
受益面積	953ha

*平成31年4月現在